

コーヒーを飲んで延ばす健康寿命

2018年 1月13日(土)

13:30-15:00 (受付13:00~)

無料

最近

「コーヒーが生活習慣病の予防に効く」
という話題をよく耳にしますが
どのようになぜ効くのかについて
最新の研究成果を混じえてお話しします

- ・定員:200名(先着順)／受講料:無料
- ・対象:どなたでも
- ・申込締切:2018年1月8日(月)
- ・会場:慶應義塾大学 芝共立キャンパス



【講師】

慶應義塾大学薬学部衛生化学講座
田村悦臣 教授

講師プロフィール

田村 悦臣

慶應義塾大学薬学部衛生化学講座 教授

プロフィール

1978年 東京大学薬学部卒業
1983年 東京大学大学院薬学系研究科博士課程修了
薬学博士
1983年 日本ロシユ研究所 主任研究員
1985年 スイス連邦工科大学(ETH) 客員研究員
1986年 明治薬科大学 助手
1991年 名古屋市立大学薬学部 助手
1992年 同 講師
1995年 共立薬科大学 助教授
2001年 同 教授
2008年 合併により 慶應義塾大学 教授
現在に至る

アクセス

- ・JR山手線/JR京浜東北線 浜松町駅下車、徒歩10分
- ・都営地下鉄三田線 御成門駅下車、徒歩2分
- ・都営地下鉄浅草線/都営地下鉄大江戸線 大門駅下車、徒歩6分

【講座情報】

コーヒーの習慣的な摂取が、肥満や糖尿病、認知症、がん、などの様々な生活習慣病を予防する効果があることを示す疫学研究が、多数報告されています。また、徐々にその分子メカニズムの解析も進んできています。薬学部衛生化学講座では、コーヒー喫飲による生活習慣病予防効果の分子基盤の解明を目指して、様々な角度から研究を進めています。

その中から、いくつかのテーマについて、最近の研究成果をご紹介しますと思います。

肥満や慢性炎症といった、生活習慣病の大きなリスクファクターに対し、コーヒーがどのような効果を示すのかを、細胞レベルあるいは動物レベルで解析しています。

これまでに、コーヒーが、細胞内シグナル伝達系に影響を及ぼし肥満の要因の一つである脂肪細胞の分化を抑制することや、炎症性サイトカインの効果を減弱させることを見出しています。



お申し込み方法

※先着順、定員になり次第締切 ※ハガキ、FAX、E-mailでお申し込みください

慶應義塾大学大学院薬学研究科 がんプロフェッショナル事務局 宛

〒105-8512 東京都港区芝公園1-5-30

FAX : 03-5400-2633

E-mail : kyg-sympo@adst.keio.ac.jp

締切: 2018年1月8日(月)

FAXでお申込みの方は、下記にご記入の上、こちらの用紙をお送りください。

ハガキ、E-mailでお申込みの方は、それぞれに下記事項のご記入をお願いいたします。

フリガナ 氏名	
住所	〒
電話番号	
年齢	
職業	

* 個人情報の取扱: 申込時に提供された個人情報は受講者管理及び御案内の発送以外の目的には使用いたしません。

【お問合せ】 がんプロ事務局

TEL: 03-5400-2648